

6 国際統計の品質を改善するための国際機関の共通戦略に向けて

Enrico Giovannini, OECD主任統計官

【統計活動調整委員会（CCSA:Committee for the Coordination of Statistical Activities）
2004年8月30日第四回会議,ニューヨーク, 2004年9月1-3日, 予備議題項目3】SA/2004/6/Add.1

1. 序¹

統計は国レベルと国際的レベルの両方で個人および集団の意思決定のための基本的投入物である。残念ながら、OECDの事務局長 Donald J. Johnstonがヨーロッパ統計家会議50周年記念の開会の辞で指摘したように、「今日、市場、経済そして社会発展等の現実についての優れた知識は、企業や人生等のあらゆる政策の成功にとって、絶対的に不可欠の要素であることに誰でもが同意する。他方で、利用可能な情報が膨大な量であるために、問題は実は知ることでなくて、何を知らるか、優れた情報と悪い情報を区別する方法なのである」。

情報社会の脈絡においては、（新聞において、インターネットにおいて）大量のデータは既に入手可能である。今や新しいデータ供給者が「情報の市場」で役割を果たし、メディア、実業界、世帯、個人の注目を獲得しようとして、政府の情報源と競争しあっている。ある場合には、この競争はどこでもは入手できないデータを生産する厳しい競争に基づいており、他の場合にはごく少数の個人による民間機関が行った調査およびあるいは計量経済的推定値が、論議の余地のない「事実」として提示され、コメントされている。

国および国際/超国家的機関（IOs）の両方がこの課題に直面している²。大学や研究機関、民間企業やNGOは、政府のデータ源や直接的に調査を行って得た統計を引用して/あるいは非政府のデータ源によって生産されたデータを併合して国際比較研究を公表している。さらに、幾多の国際機関が統計部門と研究部門の両方によって編集されたデータを配布している。結論として、統計において活動している国家機関と国際機関の両方は、巨大な数のデ

¹ この論文の以前の版は第二回 ESB 会議で提示された（Giovannini, 2004）

² 我々は以下で「国際機関」という用語は、OECDや国連など、厳密な意味での国際機関と、統計活動を行っているヨーロッパ委員会やECBなどの超国家機関の両方を含むものとして使う。OECDの定義によれば統計活動とは、「インターネット、イントラネット、CD-ROM他、あるいは出版物を通じて内外の利用者が利用可能な、統計的であるか、分析的であるが内容的には非常に統計的な、データ集合あるいはデータベースといった少なくとも一つの統計生産物を生産する活動」である。

一タ提供者を持つ公開の非常に困難な市場、そして競争が必ずしも提供される統計情報の専門的品質に基づかない市場で競争しなければならない。

こういった問題を評価し、国家統計機関のためのありうる戦略を提案する幾多の論文が書かれてきた³。本論文は、これらの問題について国際機関の見地から検討することを狙いとす。したがって、本論文は国際機関が配布する統計（以下、「国際統計」という）の品質とその信用性（credibility）とに影響する幾つかの顕著な問題をとりあげる。特に、国際統計の全体的品質が近い将来に改善されるべきとするなら、現在の制度的構成と国際統計機関の間の専門的協力が十分であるかどうかを分析しながら、経済統計に焦点をあてる。

本論文の次節は、特に、幾多の国家統計機関が過去10年間にわたって行ったように、IOsが統計の品質枠組みをどのようにして採用できるかを分析しながら、統計の品質の概念を取りあげる。第三節は、利用者と国家データの提供者が国際統計に関してひんぱんに表明する最も重要な問題に光をあて、現在の状況を改善するための幾つかの行動を提案する。最後の第四節は、国際統計の品質改善を継続する今後の可能な方法を提起する。特に、本論文は以下の要素に基づく包括的な戦略の開発を示唆する。

- **制度的準備 (Institutional arrangements)** : 広範な国際機関が既に属している既存の国連統計活動調整委員会(CCSA) に新しい仕組みを打ち立てることができる。例えば、CCSAは、現在開発されつつある原則宣言に加えて、IOsでの統計活動を指導する方法について一連のガイドラインの開発を促進するべきである。その後、彼らはIMFの一般的データ配布基準と特別データ配布基準において国家統計機関が叙述したの同様に、彼らが原則とガイドラインの両方に従う方法を叙述することが推奨されるだろう。
- **統計的品質管理における文化的変化 (Cultural change in statistical quality management)** IOsでの統計の「品質枠組み」の発展は、幾多のNSIsによって既に開発されたのと同じ仕方で促進されるべきである。さらに、国際機関の統計品質に関する第一回CCSA会合（2004年5月に開催）が、IOsの文化のそういった変化を促進する進行中の活動となるべきである。
- **国際機関間の専門的協力の強化 (Reinforced technical co-operation among international organisations)** : IOs間での統計とメタデータの交換のための共有システムの開発と利用もまたこの戦略の重要な要素であろう。データとメタデータ交換の標準(SDMX: The Standards for Data and Metadata eXchange)イニシャチブはこの点で基本的役割を果たす。最後に、職員の交換と共同訓練イニシャチブは、IOs間の相互理解と協力の強化とともに、品質の共通文化の発展を助けるだろう。NSIsとともに同様の準備をすることも、NSIsとのつながりを強め、IOsの職員に、彼らが依拠するデータの源泉についての直接的な知識を提供する。

2. 品質と国際統計

2.1 国家統計の品質枠組み

品質は通常は、利用者のニーズの見地からの「利用への適合性 (fitness for use)と定義される。この定義は今では、質が正確性と同一視されていた過去に通常使われていたものよりも広い。今では他の重要な次元があることが一般的に認められている。例え、データ

³ 例えば、第86回のDGINS会議の報告集(Eurostat, 2000)を参照。

が正確でも、もし有用であるには遅すぎて生産されていたり、容易にアクセスできなかったり、あるいは他のデータと矛盾するよう見えるなら、良い品質であると言うことはできない。このように、品質は多側面的概念とみなされている。最も重要な品質特性は、利用者グループごとに異なる利用者の見地、ニーズと優先度に依存する。

過去10年にわたって、幾多の国際機関と国家統計機関が、統計の品質枠組みの開発と実施に特別に對して注目してきた。例えば、IMF、ヨーロッパ連合統計局(Eurostat)、カナダ統計局その他の国家統計局が様々なデータ品質の構成要素を確認し、そして/あるいは、その組織と生産するデータの品質を改善するための品質枠組みを採用した。結果として、幾多の国家統計機関が現在、彼らが生産するデータの品質を継続的に分析し改善する品質管理アプローチを使っている。

国際的見地からは、IMFとEurostatがとったイニシャチブは特に重要である。前者はデータ品質保証枠組み(DQAF: the Data Quality Assurance Framework)を開発し、国家統計システムによって生産されるデータの品質だけでなく、そういった統計を生産するために実行されている制度的準備の品質をも評価している。Eurostatに関する限りは「ヨーロッパ統計システムの品質宣言」を採択し、ヨーロッパ諸国が生産するデータの品質を評価する枠組みを開発した。

この二つのアプローチは幾多の類似性と重要な相違を持つ(Laliberté, Grünwald and Probst, 2003)。IMFの枠組みは、統計システムの統治、中核的統計過程、および生産物の観察可能な特徴をカバーするプリズムを通じて品質を見ている。特に、DQAFは品質の前提と五つの品質次元を通じて得られる広範な問題を取りあげている。前提の分析は、統計の品質が、法律的、制度的環境や資源にどのように影響されるか、そして活動を管理する点での品質意識があるかないかを評価することにあてられる。五つの品質次元は以下のものである。

- 高潔性の保証 (*Assurance of integrity*) .すなわち、利用者の信頼を維持するために、統計の生産における客観性への確固とした執着を支える特性。
- 方法論的堅実性 (*Methodological soundness*) .すなわち、特定のデータ集団に関して国際的に同意された方法論的実践を関連させる実践。
- 正確性と信頼性 (*Accuracy and reliability*) .すなわち、とらえるべき現実を描くことができる原データや統計技法その他の十分性。
- 利便性 (*Serviceability*) .すなわち、統計生産物の適時性、その頻度、一貫性、およびその改訂サイクルの点での利用者のニーズとの合致。
- アクセス可能性 (*Accessibility*) .すなわち、データの利用者にとって有効なデータとメタデータ、および必要な場合に利用者に対して提供される援助の利用可能性。

Eurostatの枠組みは、利用者の見地からみた統計生産物に焦点をおき、基礎にある過程－生産物が直接的観察を許さない－にさかのぼるだけである。それは七つの次元に基づいている。すなわち、適合性 (*Relevance*) (データは利用者の期待するものか?)、正確性 (*accuracy*) (数字は信頼できるか [reliable] ?)、比較可能性 (*comparability*) (データは必要なすべての側面で諸国にわたって比較可能か?)、整合性 (*coherence*) (データは他のデータと一貫性を持つか?)、適時性と定時性 (*timeliness and punctuality*) (利用者はデータを時間どおり、前もって予定された日付にしたがって獲得できるか?)、及びアクセス可能性と明確性 (*accessibility and clarity*) (その数字はアクセス可能で理解可能か?) である。この品質定義にしたがって、Eurostatはまた様々な統計生産物の品質を測定する数量的指標 (例えば、測定誤差、適時性指標他) を開発しつつある。さらに、Eurostatは、発表するデータの全体的品質に対してその内部的過程がどのように影響しているか定期的に評価している⁴。

IMFとEurostatのアプローチの両方が、国家統計を改善する際に非常に興味深く有用であるとしても、IOsには簡単には適用できない⁵。国際機関によって配布される統計の品質は二つの側面に依存する。受け取った国家統計の品質と、データとメタデータの収集、処理、分析、配布という内部的過程の品質である (参照 Holt, 2000)。したがってIOによって生産された統計のあらゆる包括的品質枠組みも両方の見地を考慮している。他方で、とりあげた国際機関が活動する法的環境は、枠組みの企画に重要な影響を持つことができる。例えば、Eurostatは国家の統計提供者に対して方法論的基準を採用することを義務づける権限を持つ。したがってその努力は、国家データの提供者の相対的パフォーマンスの測定、および時間とともにそのパフォーマンスを改善するよう促すことに主として向けられる。

そういった規制権限を持たないIOは、その統計生産物の改善を考えている諸国に道徳的説得を使うことができるだけである。この状況下では、品質枠組みは、その統計活動を遂行する組織自身が採用する内部的過程に主として、あてられるべきものである。これがまさに、OECDが行った選択であって、2000年に「OECD統計の品質枠組みとガイドライン (QFOS: Quality Framework and Guidelines for OECD Statistics)」を開発し実施したのである。

2.2 OECD統計の品質枠組み

QFOSは上述の国家および国際機関が行った作業から利益を受けている。したがって

⁴ これは、“Qualistat”イニシャチブとして知られている。これは、利用者満足度調査、スタッフの意見調査、過程分析、訓練、繰り返しのレビュー他といった広範なツールを使用する。

⁵ IMFやEurostatはその品質アプローチの共通性を最大限にするために共同作業をしている点にも注意しておくこともまた重要である。

OECDはその脈絡で既存の定義やアプローチのわだちをふむことを避けた。特に、QFOSはOECDの内部的統計過程と管理の改善によって、OECDが収集し、編集し、配布するデータを改善することに焦点をおいている。国家統計の品質に積極的な波及的効果をもたらすイニシャチブもまた予見はしてはいるのだが(OECD, 2003a)。OECDの品質イニシャチブは、カナダ統計局他のNSIsが開発したそれと似ており、統計的、管理的、及び技術的過程を含んでいる⁶。

QFOSは四つの要素を持つ⁷。すなわち、品質とその次元の定義;OECDの統計活動がそれに基づいて行われる一連の広い原則と統計生産過程のすべての局面をカバーする品質ガイドライン、提案された新しい統計活動の品質を保証する手続き、そして既存の統計活動を定期的に評価する手続き、である。OECDは品質を七つの次元からみる。すなわち、適合性(relevance)、正確性(accuracy)、信用性(credibility)、適時性(timeliness)、アクセス可能性(accessibility)、翻訳可能性(interpretability)および整合性(coherence)である。他の要因は費用効率性(cost-efficiency)である。これは、厳密に言えば品質次元ではないが、統計生産物に対するOECDの七次元のうち可能な一つ以上の適用において、なおひとつの重要な考慮事項である(OECD, 2003)。

品質次元に加えて、国連政府統計の基本原則を主要な参考文献にして、OECDの統計家にとっての中核的価値として次のものが確認されている⁸。:

- (a) OECD統計は、偏りの無い基準で編集され利用可能とされ、統計データの収集、処理、貯蔵および配布の方法と手続きに関する厳密な科学的原則と専門家倫理にしたがって生産される。
- (b) OECDは、その統計を生産するために採用されたデータ源、方法、手続きに関する科学的基準に従って統計情報を提示する。
- (c) 統計編集のためにOECDが収集している個別データは、厳密に秘匿性を持つものと考えられ、統計目的だけに使われている。秘匿データをいかなる開示からも完全に保護することを保証する特別な手段が講じられる。
- (d) OECDの統計システムが従っている内部的ルールおよび手段は公開される。

⁶ 2004年に OECDは100の統計活動を行うことになる。OECDの統計活動の組織は分散型モデルに基づいている。このモデルは様々な統計が統計局および分析研究や政策分析に責任を持つ他の9つの局との両方によって開発されていることを意味する。OECDの統計活動についての一般的叙述についてはOECD(2003b)と(2004)を参照。

⁷ この枠組みは、OECDの統計活動が組織されている分散型モデルを考慮し、様々な局で働いている統計家との広い協議を経てデザインされてきている。

⁸ OECDの統計家はまた、ISIの専門家倫理宣言にしたがって仕事することを約束をしている。

- (e) OECDはその統計活動を国家統計局および他の国際組織との調整の下に遂行することを約束する。
- (f) OECDはすべての国の政府統計のシステムの発展に貢献するために、統計の双務的および多角的協力を発展させることを約束する。
- (g) 資源利用の制約の中で、OECDのデータ生産物はOECDの品質枠組みに概略を示した七つの品質次元のそれぞれで最大可能な全体的品質を持つものである。品質の保証に関わる努力は統計活動の規模、活動の目的、およびその頻度（すなわち、それは定期的に繰り返されるのか、ときおりのものか、一回限りのものか）に対応する。

品質次元と中心価値の定義は、経済的、社会的、および環境の統計を生産するためにOECDの統計家が使う具体的統計過程の品質をそれ自体では変化させない。そういった変化を生み出すためには、同時に、専門的、組織的および人的要因をとりあげることが必要である。したがって、QFOSの企画と実施は、以下によって維持されてきた。

- OECDの統計情報システムの脈絡の中で、データとメタデータの収集、処理、貯蔵、配布のための共同の情報通信技術の開発⁹
- 個別の活動が遂行される仕方のレビューのため、および統計活動に責任を持つ諸局を通じての水平的協力の強化のための内的規則の採用
- 統計家の訓練への投資と様々な局で働いている統計家の世界の感覚を強化することを狙ったイニシャチブ（例えば、6カ月ごとのOECD統計家全員の全般的会合、職員がその労働条件をどのように感じておち、過去36カ月にわたって実施された幾多のイニシャチブの影響に関する尺度を提供するために、2003年12月に遂行された第一回OECD統計家満足度調査、他）。

OECDのすべての統計家が常に、自らが管理する統計の品質の改善にその時間の大部分を投入しているとしても、統計の品質への定式化されたアプローチの採用がそれにもかかわらず三つの重要な利益をもたらすだろう。すなわち、第一。それは品質問題の現行の確認と解決、それによって異なる分野での専門家（統計家、ICT専門家、最終利用者、他）間の交流を最大限にする体系的機構を提供する。第二。それは品質を保証するためにOECDによって使われた過程に対する透明性を大きくする。第三。この過程は、OECD統計家の間の協力に関するより強い思いとともに、品質次元についてのOECD統計家の間での共同の見地を促進する。

⁹ Samuelson and Thygesen (2004)参照。

既存の活動に関する七つのレビューが行われ（2004年には十が予想されている）、新しい活動が新しいICTツールの使用を開始した2003年の経験は、非常に励みになると思われる。あらかじめ幾つかの注意のあとで、そういったレビューに関わった統計家の姿勢は非常に積極的であった。

2.3 国際機関の品質枠組み：要（かなめ）の課題

NSIsとIOsが内的品質管理アプローチの発展に対して払う注意を比較すると、後者が前者に遅れをとっていることは極めて明白である。過去10年間に、NSIsの間で、その品質管理アプローチを発展させ、比較し、改善するための定期的接触が打ち立てられた。そういった接触はIOsによって組織された会議やワークショップで推進・促進されることが非常に多かったが、IOsが、国家機関に推奨していたアプローチを自らに適用しはじめたのは、ごく最近のことである。さらに、国のデータ提供者が自らの生産するデータの品質を改善するのを奨励するために、IOsが方法論的標準の発展にその資源の大きな部分を費やししながら、自らの統計実践を改善するために品質管理アプローチを採用する点で全体としてごくわずかしき費やしていないのは、矛盾である。

このことについてありうる説明の一つはIOsによる自らの見方に見出すことができる。幾多のIOsが標準と研究活動を開発する協力で長きにわたる実り多い歴史を持つてはいるが、彼らは国際統計機関のシステムの一部であるとは決して考えてこなかった。言い換えれば、過去において、IOsは主として、その活動を可能な限り（有効性を最大限にし、重複を最小にする他）調整することに努力しながら、自らの顧客を考慮してその活動を発展させてきたが、IOsをその内部的過程を改善する可能なパートナーとしてみてはいなかった。

この制度的状況が、IOsにおける品質管理問題への共通の解決法を開発することの困難の大部分を説明する。統計部門は、自らの機関の中で異なる役割と位置をもち、同じ機関内の他の部門で遂行される統計活動を調整する能力でもまた大きな違いを持つ。さらに、IOsは彼ら内部でいつものように競争をしている。特に国際社会が新しい統計ニーズを表明するときにそうである。最後に、IOsの統計活動を調整する責任を持っていた（1990年代に設置され、2001年に停止した）以前の国連機関は非常に弱く、IOsがその統計活動の管理を助ける共通の戦略を発展させることを決して試みなかった。

他方で、統計活動は通常IOsが行う全体的活動のごく小さな部分なので、統計を収集、分析、配布するIOsの統計部門のICTによる解決は、その機関の他の部分の要求にしたがって選択されることが多い。したがって、IOsの統計部門は一般的には、過去数年の幾多のNSIsと違って、同じような問題を管理するために共同の綱領やソフトウェアを開発するための機会を持ったことは無い。

幸いにも、IOsの中で、その役割と活動の組織を再考することに関する意識がより大きくなっていることを示す兆候がある。新しい国連機関、統計活動調整委員会(CCSA: the Committee on Co-ordination of Statistical Activities)がIOsの統計作業を調整するために2002年に設置された。六つの機関(IMF, UN, OECD, Eurostat, ECB および BIS)¹⁰は2001年に、新しい技術に基づいてデータとメタデータの交換標準(SDMX: Standards for Data and Metadata Exchange)を開発するタスクフォースを設置した。さらに、二、三の機関が、新しいソフトウェアによる解決を開発し、共有しながら、そのICTシステムの大きな改組を計画した。最後に、IOsは新しい方法論的標準を、特に経済統計について発展させる次の5年間にわたる大胆な課題を設定した。

IOsの間での双務的および多角的協力は、過去数年にわたって、主としてボトムアップアプローチに従いながら、特により大きな機関の間で改善された。しかし、国際統計の品質の改善という最終目的を念頭に置きながら、IOsの活動を方向付け、新しい制度的組み立てと技術変化によって生み出される機会から利益を得るためには、もっと全般的な戦略が今や必要である。本論文の最後の部分は、そういった戦略のありうる要素の幾つかを論じる。しかし、その前に、そして、最終利用者が統計の品質を評価する際に重要な役割を果たすという基本的考えに従いながら、次節では、今日の情報社会という脈絡の中でIOsが直面する品質の課題を検討する。

3. 国際機関の新しい（そして古くからの）品質課題

利用者の統計的ニーズの分析は、どの部類の利用者を対象としているかをもっと正確に確認する努力なしには非常に難しい。政策立案者、メディア、大学人、実業界および世帯は、広い範囲のニーズを表明し、個別の品質次元の相対的重要性に関しては異なる見方をしている。しかし、この問題と様々の国際会議で起こってきた次元でのOECDの経験を検討すると、IOsへの新しい課題を創り出すか、古くからの課題をより適合的にする国際経済統計への需要における広い傾向を確認することができる。本節は、国際統計の比較可能性の改善、適時性の改善、時系列の長さの増加、そして統計データへの無料のアクセスの拡大に関して、利用者の見地から四つの課題をとりあげる。これに加えて、国の統計の提供者の見地からIOsの活動への期待も検討される。

3.1 国際的比較可能性

新しくものではないことが明らかな第一の課題は、*国際的に比較可能なデータの生産*である。IOsと国の統計の提供者が行った努力にもかかわらず、主要な数字の実際の比較可能

¹⁰ 世界銀行は2003年にこのグループに参加した。

性は国際的レベルで同意された標準の長い歴史を持つ経済統計の領域においてすらなお貧しい。OECD(他のIOsと協力して)OECDが生産性統計について最近遂行した研究は、貯蓄率、サービス部門の付加価値、賃金、工業生産、公的負債と赤字、等々についての統計は、国を越えての比較が極めて不十分であることを示している。

これは、実際に品質のこの次元の可能な限りの改善にその資源の大きな部分を費やしているすべてのIOsにとって最も重要な優先度をもつものである。既に強調したように、国際的規範と標準を適用することをその顧客に強いるためにIOsが持っている力には大きな違いがある。例えば、EurostatとECBは、規制や他の法律に含まれている統計的要請に従うことをヨーロッパ諸国に義務付ける規制権限を持っており、IMFは、主要な経済統計の国際標準を加盟国が遵守している度合いを細かく検査するツールとして、標準とコードの観察報告(ROSCs: the Reports on the Observance of Standards and Codes)を使う可能性を持つ。他方でOECDは、国のデータの提供者への道徳的説得をするためにその政策的諸委員会を利用している。

過去10年をみると、ヨーロッパ諸国が、生産している経済統計の比較可能性を大きく改善したことは絶対的に明らかである。それにもかかわらず、関係ある相違がなお存在する。これは特に、(EUの機能を管理する原則に従って)Eurostatが使用する一般的アプローチが「生産物の調整」に基づいているからである。この意味は、各国は、最終生産物が法規に定められている(正確性、適時性他の)要請にかなっていることを条件にして、様々な方法と組織的機構にしたがっているなら、求められている統計を自由に生産しているということある。わずかの場合にだけEUは、ある種の「投入での調整」を使って、ヨーロッパの政策を進めるための重要な数字の生産のためにしたがるべき高い精度をもった方法論的アプローチを指定することが必要と考えた。

OECDはまた、新しい統計領域(R&D, ICT, 統計, 教育, 保健, 他)と諸国が遂行する方法の評価において、標準を開発する点で非常に活動的であった。この場合、比較可能性を改善するために最も重要なツールは、専門家および政策グループが遂行する同業者による検討過程(the peer review process)である。このアプローチは、OECDのニーズに見合うように、諸国がその統計的過程の改善を、国際基準を採用すること、および/あるいは国の数字を国際基準にしたがって再計算することによって、進めてきた。

しかしながら、主要経済地域(EU, 合衆国, カナダと日本)の間の比較可能性はなお満足のいくものではない。他方で、1993年のSNA(SNA 1993)が今や、世界規模で、参照マニュアルになっていることは明白である。これは実際、すべての国に、そこに含まれている概念、定義、及び分類に従う圧力を強めてきた。他方で、諸国がSNA1993を適用する仕方は、重要な比較可能性を作りだし続けており、同じ結論が経済統計の他の分野(例えば、工業生

産、消費者および生産者物価、サービス統計、国際収支、他)について、ひきだされうる。

既に述べたように、これは新しい問題ではないが、ユーロ地域の創設（と単一通貨政策の発展）が、政策立案者や分析家が国際統計の比較可能性の問題を検討する際の方法の重要な変化を示すことは極めて明白である。ユーロ地域に関してかつてなく多くのデータが世界中の利用者から求められている。これに加えて、グローバリゼーション化の傾向と、世界経済での新しい世界的プレイヤー（例えば、ロシア連邦、中国とインド）の発展は、主要な経済統計の国際的比較可能性の問題をさらにより大きな課題にしている。この変化した環境は、統計家の生活を過去よりも難しいものになっている。事実、国の政策問題が論じられるときに、政策立案者は、国の定義に基づく統計を検討する必要がある。それらは、メディアで最もひんばんに報告される統計だからである。しかし、彼らが国際的傾向を検討するときには、同じ政策立案者が国際的に比較可能なデータを要求する。残念にも、各国の利用者と国際的利用者の両方が各国での論争において国際的に比較可能な数字に徐々にだけであるが、より大きな関心をもつようになっているので、このジレンマは長期的にだけ解決できるものであり、短期的には、二つのレベルが共存することが必要である。

経済統計の比較可能性をさらに改善するためには、四つの主な作業領域が特別の関心を受けて、IOsによる共同の投資が向けられる値がある。

- 世界の主な地理的-経済地域についての重要な経済統計に関する比較可能性のより広い、より継続的な評価問題：
- 国際統計標準の実施の多角的監視の強化。これはまた、必要な比較のための適切なメタデータの利用可能性もふくむ：
- 上で、世界的プレイヤーとして言及した諸国に対して、専門的援助の有効性を最大にし、統計とその国家統計システムの全体的な品質を改善するための共同の圧力を行使するために、IOsが遂行する活動のより優れた調整：
- 国家の出所から用意されるデータの調整におけるIOsのより強い役割。

第一の問題に関して、IOsは、アカデミックなサークルで作業している人々を含めて専門家の小さな国際的チームの発展を通じて、最も重要な問題に向けた国際的課題を共同で開発すべきである。例えば、OECDは加盟国が生産性の数字を推定するために使った現在の実践の検討を最近行った。この結果の示すところでは、過去15年にわたって、合衆国、日本とヨーロッパ諸国の間の総合生産性に見られた違いの大きな部分は、おそらく測定問題による可能性が最も大きかった。現在、きびしい比較可能性問題が、賃金レベルと成長の尺度とともに、国際的な分析家が使っている貯蓄率の尺度に影響を与えている。

国際統計標準の採用に関する多角的監視の強化もまた非常に重要である。1990年代にIMFが開始した特別データ配布基準（SDDS：The Special Data Dissemination Standards）と一

般的データ配布基準(GDDS: General Data Dissemination System)も非常に重要である。それらは、国の統計システムの強みと弱みを一般大衆に意識させている。この点でのもう一つの優れた例は、ヨーロッパ通貨連合(the European Monetary Union)の行動計画の実施についてEurostatが遂行した監視である。それは、政策立案者と公衆全体に対して、国とヨーロッパ統計を改善するために十分な資源を投資するための圧力をかけるとともに、政策当局が表明したニーズに加盟国が応じている度合いを伝える良い方法を示している。これらの例はすべてのIOsが従うべきものである。加盟国が国際勧告を実施する方法についての要約報告の出版は、より比較可能なデータを生産するよう国家当局に圧力をかける重要な方法でありうる¹¹。

国際的比較可能性を評価する現在の能力を改善するためには、国家の実践についての十分なメタデータが生産され、配布されるべきである。これは非常に複雑な問題であるが、優れた実践は既に利用可能である。既に述べたように、SDDSとGDDSは、国家統計の翻訳可能性を増大させる方向での価値ある貢献を提供するが、十分には詳細ではなく、比較可能性問題のより深い分析を可能にはしない。この分野での困難は、データ提供者が採用した非常に異質なメタデータの配布実践によるものである。この理由によって、OECDは、データとメタデータの提示に関する勧告を開発する作業を進めてきた¹²。

国際世界が新しい世界のプレイヤーの世界にかかる圧力を強める必要もある。これらの諸国は過去数年にわたって払った努力にもかかわらず、なお多くの作業が行われるべきであり、わずかの領域での幾つかのIOsの間で発展させられた一時的な協力は不十分である。そういった諸国が生産したデータの品質はすべてのIOsにとって共通の問題になるべきものである。主要な経済的、社会的統計の品質をもっと有効に、評価するためには特別な投資が必要とされる。同じ仕方でも、IOの双務的および多面的活動のより優れた調整が、統計的問題についての政治的対話を発展させるとともに、統計発展においてそれらの諸国を支援するために、緊急に要請される。2003年には、OECDはIMFとの協力の下に、そういった国のための統計的品質管理についてのセミナーを組織したし、フォローアップのイベントが2004年に計画されている。適切な情報を交換し、IOs間のより効率的で有効な分業を確認するために、技術援助に関与しているIOsの間で、世界的プレイヤーをもって非公式の進行中の協議が組織されるべきである¹³。

¹¹ この点で、1994年に国連統計委員会が採択した政府統計の基本原則の実施について国連統計部が実施した最近の調査もまた引用する値がある。調査の結果は討論と一層の行動のために国際世論と政策立案者が注意するべきである。

¹² これらの勧告の最初の草稿は、コメントのために2004年の夏に入手できるだろう。

¹³ 中国統計の成果と課題について2004年5月に北京で開かれたシンポジウムの具体的なフォローアップとして、OECD、IMFとカナダ、ドイツ及びフランスの統計局は、情報を交換し、国民勘定に関して中国との技術協力について共通の活動を計画する電子的討議グループを創設することに合意し

最後に、国際基準を採用する点で国のデータの提供者に遅れがある中で、IOsは国の出所から収集されたデータを事後的に調整する点で大きな役割を果たし、方法論的作業により多くを投資し、第一次データをより比較可能に修正する点で何らかの危険をおかすことを求められる。ここには、IOsと国のデータの提供者—通常は彼らのデータが他の機関によって修正されることをみるのは望まない—との関係にかかわる明確な政策課題がある。他方で、利用者からの需要は非常に明白であり、IOsは、各国の国際規範に従うことへの限られた意欲、あるいは国際比較可能な数字を生産する国レベルでの限られた資源によって、人質になることはできない。幾多のIOsの経験が示すように、様々なニーズの間の正しいバランスを見出すことが可能であるが、IOsにおける十分な専門性と技能の存在が、この領域でのすべての実り多い協定の不可避的な前提条件であり、そういった前提を作るには十分な投資と資源が必要である。

結論として、主要な経済統計の国際比較可能性を改善する必要は、IOsとその顧客が無視できない優先度をもつものである。そういった問題を取り上げるために追加的資源が必要であるが、この領域での現在と将来の活動の効率性と有効性を改善するために、新しい制度的準備が確認されるべきである。

3.2 国際統計の適時性の改善

今日、経済統計の適時性の改善は、国と国際機関の両方にとって絶対必要なことになった。ごく最近まで主要なマクロ経済統計の発表日程は、利用者によって十分満足がいくものと考えられていたが、今では非常に不十分であると考えられている。したがって、すべてのNSIsは、調査対象期間とそういった統計を発表する日付との間の時間を短くするために特別な努力をしている。

適時性と正確性の間の非常に良く知られているトレードオフが、過去20年にわたってOECD諸国で異なった仕方で解釈されてきたこともまた事実である。例えば、20年前に、合衆国経済分析局(BEA: US Bureau of Economic Analysis)は四半期の終わり以前にすら、四半期GDPの速報値を発表していたのに対し、ヨーロッパ諸国は、四半期の終了後90日と100日の間に最初の推定値を発表していた。それ以後、BEAはその速報推定値をやめ、ヨーロッパ諸国は調査対象期間の終了後30-40日に暫定推定値を発表し始めた。

ヨーロッパ諸国は、彼らの重要な経済統計の適時性を改善するために、特に過去数年ECBからの圧力のもとで大きな投資している。ワーキンググループがOECDによってだけでなく、Eurostatによっても設置された。合衆国の例にしたがって、ヨーロッパ主要経済指標

た。

(PEEIs: the development of the list of Principal European Economic Indicators) のリストの開発, 「ヨーロッパに速い」原則の採用, 様々な指標の適時性を改善するための加盟国で行われた投資, およびいくつかのPEEIsについての予備的推定値のEutostatによる配布は, 適時性に関するEUと合衆国の間の既存のズレを部分的には減らしてきた。

他方で, OECDの短期統計専門家グループ(ここには, ロシア, 中国, ブラジル, インド, インドネシアと南アフリカからの代表が定期的に招かれた)の創設が, ヨーロッパと非ヨーロッパ諸国の経験の交換を改善した。適時性を改善するためのアプローチの上に創設された三つのタスクチームの一つが, 2004年の7月までに勧告草案を発行すると考えられている。OECDはまた, ヨーロッパ委員会のDG-ECFINとともに, 事業と消費者の傾向調査に関する専門家グループを設置した。その狙いは, 主要な経済指標の初期の推定値を開発するためにひんばんに使用された源泉から引き出された指標の品質と国際的比較可能性を改善することであった。最後に, *the Journal of Business Cycle Measurement and Analysis* が, この分野の科学的研究のために, OECDと経済的傾向に関する国際的研究センター(CIRET: the Centre for International Research on Economic Tendencies)によって創刊された。

同じく重要なのは, 過去数年にわたって遂行されたROSCsの知見に基づいて, 重要な経済指標を発表するための改訂政策についての勧告を発行するために最近遂行された活動である。この活動は, IOsが関連する経済的領域に対するより適時性のあるデータを生産するために, 欠けているデータの自動的推定値を作成することにより深く関与してきたので特に重要である。

結論として, IOsは, 国家統計局を, より適時性のある統計を発表する努力の点で支援するために最善の努力を果たしていると思われる。他方で, 彼らは自らが収集し, 発表するデータの適時性を改善するために一層のことは行うことができる。国家統計局とIOsの間のデータの移送は, なおeメールによって送られるファイルに大きく依拠している。受け取られた後に, そういったファイルに含まれているデータは, 読まれ, チェックされ, 内部のデータベースに貯蔵され, 再フォーマットされ, 配布される。この手続きは, 厄介で, 時間消費的であり, 資源集約的で, 機関に他のIOsの活動との重複を余儀なくさせる。

しかしながら, 異なるアプローチも, データシェアリング—ここでは, オリジナルデータの提供者(例えば, 国の統計機関)がデータとメタデータを一定の書式にしたがって, すべてのIOsがリアルタイムでアクセスできるそのウェブサイト上で配布する—の概念に基づいて可能である。同じモデルがまた, 作業の重複を避けながら, そして間違いを最小にしながら, IOsの間でのデータ交換に適用することができる。OECDは特にこの分野で活動的である。いわゆるウェブ質問(web queries)(それを通じて, インターネット上で入手可能なデータが, まさにワンクリックで定期的に収集される)を使ってデータを収集する手

続きを開発した後、OECDは、年次の国民勘定データを収集するためにOECDとEurostatが同意した共通の調査票に基づいて国民勘定の世界規模の交換（NAWWE：National Accounts World Wide Exchange）プロジェクトを出発させた。NAWWEプロジェクトの背後にある考えは、それらの共通データの国による報告を容易にするウェブに基づく機構を構築することである。もしこれができるなら、関与した各国際機関は、同じ機構を使うことができ、それに関係する共通のデータのプールの部分集合にアクセスできるだろう¹⁴。

そういったアプローチ¹⁵に必要な専門的事項から離れて、IOsと国の統計機関の文化的変化が必要とされることへの注意が重要である。特に、データシェアリングモデルの採用は、現在のパラダイム（各機関が賛否両論の継続的過程の一部となることを余儀なくさせる）から、新しいパラダイム—そこでは、第一次のデータ源が提供する情報が関心あるすべての者によって同時に共有される—への移行を示す。この問題には本論文の最後の部分で再び言及するが、このアプローチが、欠けているデータの推計値の自動的生産とともに、IOsが発表するデータの適時性を改善するための作業の最も有望な領域に思われることは極めて明らかである。

3.3 時系列の長さを伸ばす

最も重要な経済指標の時系列の時間にわたっての整合性は、国際統計の利用者にとって問題である。新しい推定値の品質は、急速に変化する現実を捕捉するための分類の修正、報告者負担を最小にするために統計調査を行政的データ源で置き換えること、および新しい国際的勧告と基準の実施とともに、より高度な方法の採用による推定値の正確性の改善、によって改善することができる¹⁶。同時に、これらの変化は長期にわたる時系列の入手可能性を制約することができる。

一般に、国の統計機関で実際に同質の時系列を再構築しているものはごく少ない。これは、資源の欠如と、そういった作業は最近の系列ほど正確な遡及推定値を生産することはできないと考える国の統計機関の傾向との両方による。同じ政策を幾多のIOsに見ることができる。一般に、IOsの統計部門で働いている統計家は遡及推定値の生産には非常に慎重であるのに対して、経済研究部門はそれを自身で生産し、その作業結果を外部に配布するこ

14 データは機関にわたって必ずしも移行はしないが、利用者が国と変数の参照を用いて簡単にデータをひきだせるような書式でウェブ上で出版される。この概念の証拠として、二つ加盟国、オーストラリアとカナダは、国民勘定表の部分集合について示唆された機構を試行することに同意した。

15 SDMX イニシャチブによる開発の下でデータとメタデータの交換のための基準が国の統計機関とIOsに新しい協力モデルを開発するための新しい有効なツールを提供するだろう。

16 これはヨーロッパ諸国にとっては特に適切である。というのは、統計に関する規制や他の法規の適用範囲が時間に関して増加するからである。

とが多い。この二分法の結果は、利用者は研究部門が発表したデータベースを利用して、IOsの統計部門が生産したデータベースを利用しない傾向を持ち、後者の適切性を減らし、そして/あるいは、同じ機関が発表したデータベースを通じてのありうる不一致をもたらす。

この分野に国際的勧告が無いことはできるだけ速やかにとりあげられるべき重要な弱点であり、OECDは2005年に短期統計の専門家グループ (Expert Group on Short-term Statistics) にこの問題に関する作業をするように提案するだろう¹⁷。さらに、適切性があるので、この分野でこのグループが定式化したどのような勧告も国の統計機関の長とともに広く論議されるべきである。

EUとユーロ地域の総計数に関するデータでは特別な問題が生じる。第一の問題は、10の新しい国がEUに加盟する2004年5月に非常に関連してくるだろう。それらの国がEU統計基準に合致するように努力したにもかかわらず、最も重要な経済統計の長期時系列はなお非常に限られており、多くの場合において、系列は1990年代の半ばに戻るだけであろう。

EurostatはEU25の総計を計算するための政策を開発したばかりである。これは、2004年5月1日前の対象期間についてのEU15とEU25の合計とEU25以後のための系列だけの公表を必要とする。2004年5月1日以後の対象期間については、EU15の合計は、月次データについては2004年の終わりまでに、四半期と年次データについては2005年待つまでに更新される。その後には、EU25の合計だけが発行される。

EU25の総計についての長い時系列を速やかに再建するEurostatとECBの特別の努力がなければ、以後の2年間にわたって、それぞれの国際機関が、2つの推計値を作成して、おこりうる結果として異なる時系列を配布するという実際の危険がある。新しい加盟国の六つ (スロベニア、リトアニア、エストニア、ラトビア、キプロス、マルタ) が現在は加盟していないので、OECDは新しい問題に直面するだろう。したがって、EUの合計を計算するためには、OECDはEurostatとECBのデータに依拠するであろうし、ECBのデータは、それら機関によって、他の19のEU諸国について収集されているデータがOECDのデータベースで現在利用できるものと完全には一貫していないなら、OECDの出版物とデータベースと何らかの矛盾を生み出すだろう。

ユーロ地域統計のデータの問題は、特に1999年1月前のユーロ地域の時系列を再構築することに関してさらに複雑である。様々なIOsがこれを扱うために異質のアプローチを採用し、異なった系列が利用可能であることになった (Schreyer, 2001; OECD, 2002)。この問題は、新しい諸国がユーロ地域に参加する今後数年にわたって再燃するだろう。したがって、過去5年間にわたる経験に基づいて共通の解決策を見出すという見地から、近い将来にこの問

¹⁷ この努力への可能な限り多数のIOsの参加があると非常にありがたい。

題をめぐる協議の新ラウンドが組織されるべきである。

結論として、I0sは、系列の中断をどう扱うかについて国のデータ提供者への国際的勧告を開発すること、国の統計機関と共同で定義され、同意を得たアプローチを採用する一方で、長い時系列を生産する際にその役割を強化する点でもっと積極的であるべきである。

3.4 統計データとメタデータへの自由なアクセスを拡大する

政府統計は幾多のOECD諸国で公共財と考えられている。この脈絡で、それらはインターネット上で無料で配布され、利用者は紙による刊行物と注文に応じて作られた統計に支払うだけである。このアプローチはOECDの増加しつつある数の諸国で実施されており、そのすべてで、無料の基本的データ、すなわち、主要なマクロ経済、社会および環境の集計数を配布している。二、三の国で、以前には販売されていたデータの無料の配布による収入の喪失が、e政府イニシャチブの一部として政府によって補填されてきた(参照。Finn and Giovannini, 2003)。

I0sは明確ではない像を示していたが、その配布戦略において、いくつかの関連する変化が最近観察された。例えば、OECDの統計戦略とのつながりでは、OECDはそのウェブサイト上の統計ポータル、幾多のデータベース、すべての方法論的出版物、および他のデータベースに含まれているデータの約10%で、今では無料で配布している。また、様々な統計出版物の過去の発行分を無料で配布する計画もある¹⁸。とかくするうちに、Eurostatは最近すべてのデータを無料で電子的に配布する方向に進む意図を表明した。

非常に厳しい予算制約の下にあり、その統計生産物から、出版物の全収入の3分の1(4億ユーロ以上)を収集しているOECDのような機関にとっては、すべてのその統計を無料で配布することへの動きはこの段階では実行可能ではない。生産物を特定の聴衆(大学、民間会社、メディア、他)が利用できるようにする専門的会社に関与することで生じる費用とともに、新しい配布綱領とソフトウェアへの投資は、何らかの形での資金の手当てを必要とする。しかし、国のデータ供給者が彼らのデータの無料配布に向けて進む中では、同じアプローチを採用しないI0sは締め出されて、不可避免的にその収入が低下するという真の危険があることは明らかである。

この課題に対応するには二つの方法があり、両方ともたどってみるべきである。第一。わずかの国で既に行われているケースであり、I0sの顧客はその政策を変えてI0sに対して

¹⁸ すべての統計生産物とデータベースは、加盟国政府と国家統計機関の役人と、互惠主義の条件の下に、他の国際機関とが、無料でアクセス可能である。

大きな移転をおこない、配布のツールを改善するために必要な投資を行なうとともに、無料の配布による収入の損失を賄うのである。第二、I0sは国家当局が配布する生産物との比較で、その生産物の付加価値を増加することに資源を投資すべきである。この投資は、統計のアクセス可能性と翻訳可能性を改善するために行われ、より精確なメタデータと案内ツールを国や支配地域を越えて提供すべきである。この点で、統計的・分析的作業の両方、あるいは広い範囲のトピックスをとりあげる機関は、他よりもより優れた状態になっている。というのは、それらは、特定の利用者へ新しい特別仕立ての生産物とともに、統計、分析、および政策への統合されたアクセスを提供することができるからである。

現在まで、I0sは効果的な戦略を開発できないでいる。I0sのすべてが、開発および配分費用を減らす協力的なアプローチを確認する努力なしに、なお自らの配布の解決法および統計データの再販売者との関係を開発しつつある。これは、I0sはなお相互を競争相手とみて協力者になりうる者とはみていない明白な合図である。しかし、そういった見方は、必ずしも統計活動に責任を持つI0s内の単位間の協力の欠如によるのではなく、おそらく、マーケティング戦略を実施することに責任を持つ領域によるところが大きい。トップマネジメントが共通の目標を確認し、可能な解決法を見出すことを奨励するイニシアチブは非常に望ましい。国家統計機関と中央銀行は、この方向へI0sを押し出す大きな役割を果たすことができるだろう。

3.5 国のデータ提供者の負担を軽減する

I0sがデータ提供者に課す負担を最小にするという課題もまた非常に重要である。オーストラリア統計局が行った最近の調査によれば(ABS, 2004)、データ提供機関は、1年当たり総計で108のデータ提出をしており、34の異なる調査票を使って、10のI0sへ報告することが求められている。ICTの発展と、データ収集の重複を削除するために幾多のI0sが行った努力にもかかわらず、I0sからの需要は毎年着実に増加しているため、国のデータ提供者からI0sへのデータ移送の数は減少していない。

国のデータ提供者とI0sの両方での資源制約によって、そういった傾向は、I0sによって配布されたデータの正確性と比較可能性の全体的減少という結果をもたらす危険がある。幾多の国家統計機関と他のデータ提供者は、I0sへのデータ移送を、いかなる見返りもない純費用と考えている。このことは、特に国内目的に向けては国際的基準を使わず、そして/あるいは国際データに基づいた分析研究には従事していない国家統計機関についていえることである。したがって、かなりの国家データ提供者は、I0sへのデータの準備に十分な注目を払わない。このため、I0sはオリジナルなデータ出所との接触、および間違っただデータの修正にかなりの時間を使うことを余儀なくされている。

他方で、同じデータが幾多のIOsに移送されるときには、IOsの各々が、自身で変更と推定をし、最終的統計を内外の利用者に配布しながら、データを処理し編集する。この過程の最終結果は、その大半の場合において、利用者は異なるIOsが配布した同じ変数に関するデータの間大きな違いを見出す。少数の例において、そういった違いはまた、同じ変数であるが、同じIOsの異なる部門が発行した変数に関するデータの比較の際に生じる。この残念な状況は、IOsの全体的な信用にとって大きな危険をもたらすものであり、利用者が多面的なデータ源にますます多くアクセスするようになり、経済的、社会的、環境的現象をカバーする「水平的研究」を行う必要が増加しつつあるところではもはや受け入れ難い。

今日では、最近のICTの発展のおかげで、IOsはデータ提供者の負担を最小にし、不一致を取り除くための強力な道具を持つ。そういったツールの採用は、専門的と組織的の両方の見地での初期投資を必要とするが、効率性と信頼性の点での収益は非常に大きい。SDMXイニシャチブはそういった努力(www.sdmx.orgを参照)を支援するために開始されたが、現在でも現状を改善することが可能である。すでに述べたように、ありうる解決法は両サイドでの文化的変化を要求する。国の統計機関は特に、移送されたデータの正確性にもっと注意を払いながら、国際的要請を検討する方法を変えることを要請される。他方でIOsは、他のIOsとのデータシェアリング協定に署名し、データとメタデータの収集のための共通の綱領を発展させながら、彼らの要求を最小にし、移送の経路の効率性を改善しなければならない。

OECDは、経済統計の分野での作業の重複を最小にするために、Eurostat、IMF、ヨーロッパ委員会のDG-ECFIN、国連統計部とのプロジェクトを推進しながら、過去2年間にわたって、非常に活動的であった。Eurostatとの協力は既に、OECDが構造的企業統計、全般的政府勘定および金融勘定についてヨーロッパ諸国からのデータ収集を延期することを可能にした。さらに、OECDは、ヨーロッパ諸国からの直接的データ収集を最小限にするという見地で、EurostatのNew Cronosデータベースに含まれている短期的経済統計とOECDのMain Economic Indicatorsデータベースに含まれているそれとを比較する作業を進めている。DG-ECFINとのプロジェクトは、すでにOECDがヨーロッパ諸国のための企業傾向と消費者意見調査データの収集を（2004年1月以降）延期し、代わりに、ヨーロッパ委員会が収集したデータに依存することを可能にした。さらに、2004年2月以降、OECDがOECD諸国からそれらを直接収集する代わりに諸国に対して工業生産指数を提供しつつある。最後に、OECDとUNSDは国際貿易データの共同データベースを開発しつつある。これはOECDがその加盟国のためにデータを供給し、UNSDが他を扱うという分業にしたがって両機関によって日々更新されるはずのものである。

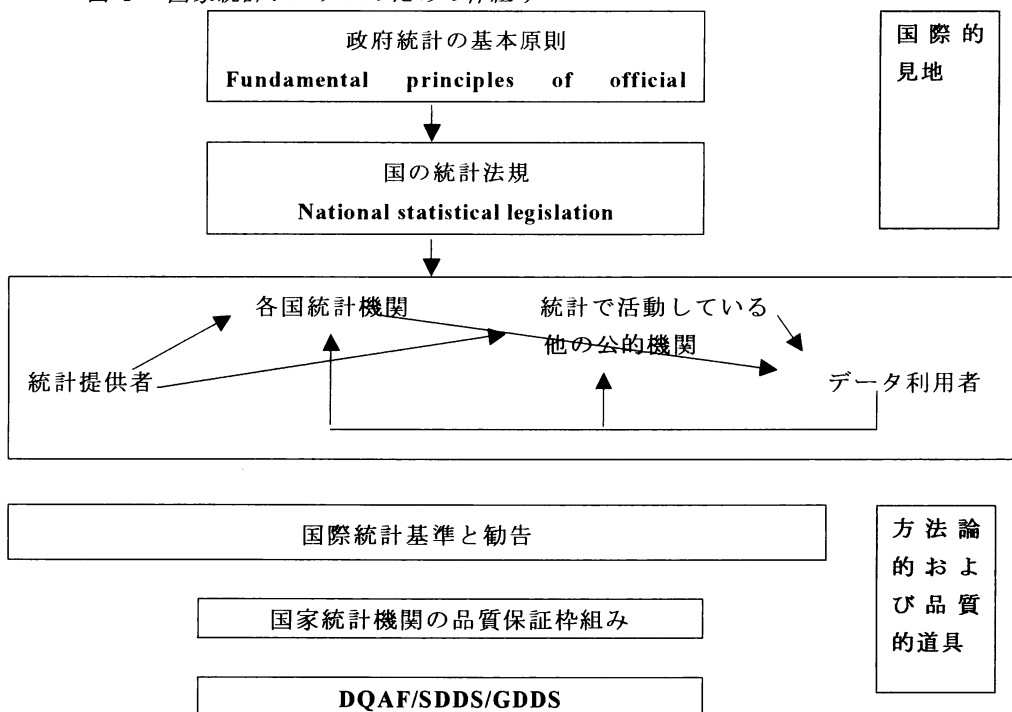
これらすべてのプロジェクトは、データシェアリングへの新しいアプローチを適用することの可能性を示している。すなわち、これは、現在研究活動に向けられている資源を解

き放ち、データ収集、確認および管理と結びついたOECDの費用を大きく減らす。

4. 国際統計を改善する共通の戦略に向けて

本論文で示したとおり、制度的、組織的、技術的制約は、10sが国際統計の現在の品質を改善する全体的能力を制限する。すでに述べた提案に加えて、10sは、強い協力、特に統計で最も活動的な者の間での協力に基づいて、より包括的な戦略を発展させる必要がある。そういった戦略は次の5年間にわたって、三つの可能な主な柱—すなわち、新しい制度的整備、統計品質管理における文化的変化、技術協力の強化—に基づいて具体的に測定可能な目標を確認すべきである。

図1 - 国家統計システムのための枠組み



もし、国の統計システムの組織と10sの現在の状況とを比較すると、10sが利用可能な、システムを構築するためのツールの数は非常に限られていることは明らかである。国のシステム（図1）は（何らかの形で）国連の政府統計の基本原則を一般的背景とし、国の統計法規を具体的参照物として使いながら作りあげられてきた。そういった法規は通常、データ供給者と利用者との関係について国の統計機関（あるいは他の公的機関）が従うべき規則

を制定している。他方で国の統計機関は、国の統計の生産のために、IOsが発行した国際統計基準や勧告を使うことができる。最後に幾多の国家統計機関は、生産するデータの品質を改善するための品質保証枠組みを開発し、品質分析と報告への共通アプローチ（すなわち、IMFのデータ品質保証枠組みDQAF,SDDSおよびGDDS)は、品質パフォーマンスを比較するために使われてきた。

IOsはその機能と活動に向けたそういった包括的アプローチの開発からはほど遠い。幸いにも、かれらは国家統計機関にとって既に開発されているものからとても多くを学ぶことができる。第一に、既存の国の統計システムとリンクし補足の両方を行っている国際機関の統計システムの発展にとって制度的構成部分がいかに基本的でありうるかを理解するべきである¹⁹。既に述べたように、このシステムは共通して、少数の中核的原則、品質の文化、および共通の技術的インフラストラクチャを持つべきである。それは、できるだけ多数の組織から構成されるべきである。尤も統計において活動しているすべてのIOsがはじめから参加することが必要ではないのだが。国の統計機関が既に利用可能な枠組みと比較して、IOsのための枠組みの全般的な像が図2に描かれている。これはまた国のデータの供給者、国の統計機関、IOs及び最終利用者との間の主な関係を重視している。特に、国の統計機関が生産したデータは様々なIOsに渡され、IOsは国のデータ源との間でとともに、機関間でデータを交換する。利用者はデータを国家と国際の両方のデータ源から獲得し、国家と国際のデータ源の両方に対して、それらが配布したデータについて評価を示すことができる。

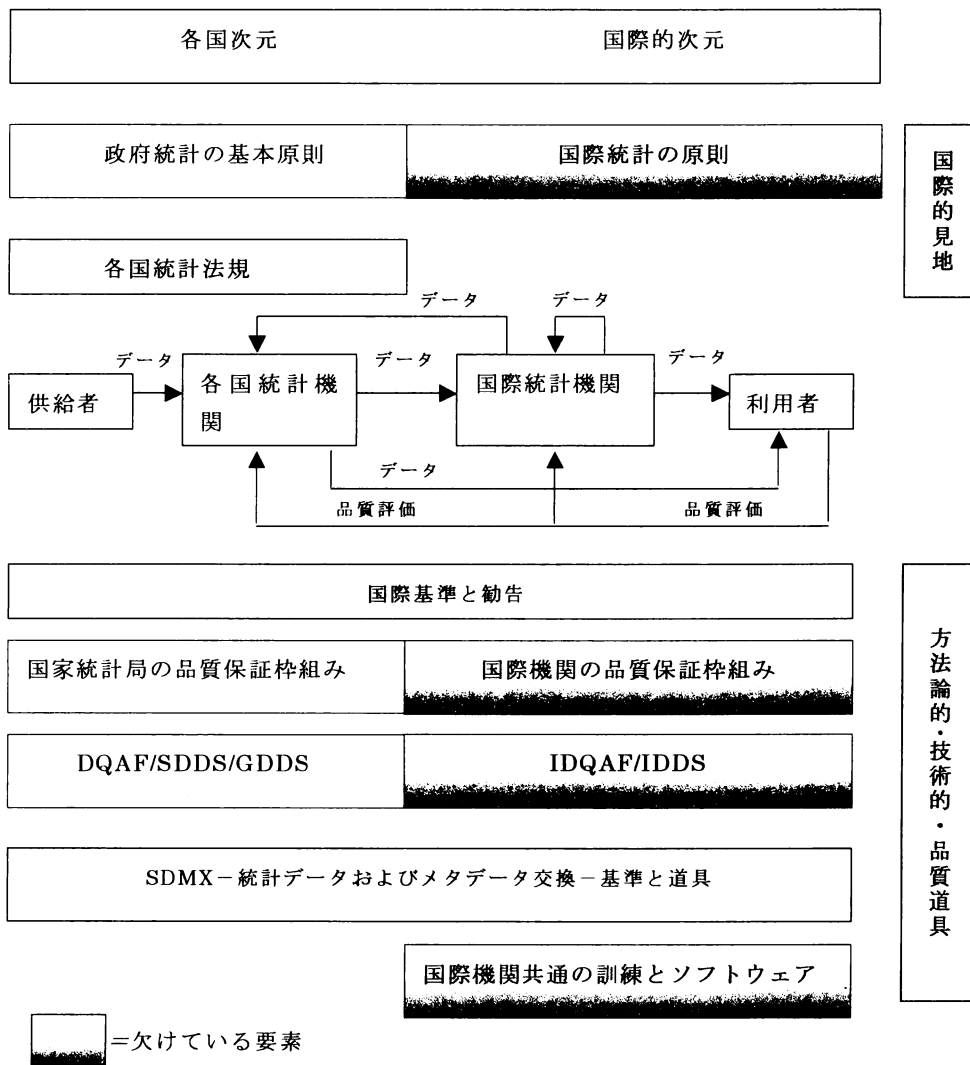
そういったシステムを発展させることへ向けての第一歩は、政府統計の基本原則に含まれているものと類似している少数の中心的原則に同意することである。CCSAは現在この方向で活動して折り、そういった原則の最初の草稿は2004年9月に論議されるべきである。統計家の国際界が同意するなら、これらの原則はIOsの長たちによって公式に支持されるべきである。原則はIOsの長と統計の高級管理者に、その統計サービスと活動を組織する際のガイダンスを提供するだろう。

そういった原則を実施する費用を最小にするためには、IOsは既に入手可能な優れた実践を確認し、新しい技能と組織的解決をともに学習する必要がある。さらに、IOsが遂行する統計活動の品質保証枠組みの発展が促進されるべきである。したがって、IOsのためのシステムを開発するための第二段階は、IOsがその実践を共有でき、現在の状況をどう改善するかを論議することができるフォーラムの創設であろう。この点で二つの提案が可能である。第一に、基本原則を実施する際に国の統計機関がしたがった実践についての国連データベースは、IOsにおける経験を含めるように拡大されうるだろう²⁰。特に、IOsに対する独立し

¹⁹ このトピックについては H. Brüngger (2003) を参照。

²⁰ 現在、Eurostat と国際統計機関だけが、このデータベースに含まれている。

図 2-提案された国際統計システムの枠組み



た部門が創設されるべきであり、CCCAはこのサイトを大衆化する方法について定期的に通知されることになろう。第二に、「国際機関の統計品質」に関するCCSA会議(2004年5月にはじめてWiesbadenで開かれた)は、IOsが、品質を改善する特別なイニシャチブとともに、品質枠組みの発展と実施を討議する助けとなる進行中のイニシャチブになるべきである。これらのイニシャチブは、品質管理アプローチの採用と彼らが配布する統計の品質の改善を支持する積極的な文化的変化をIOsにおいて生み出すことが望まれる。他方で、IMFのDQAF、SDDSとGDDSでの経験は、データ供給者がその生産過程を改善することを推し

進める際に公的評価が持つことのできる重要な役割を示している。提案された過程における第三の段階は、このようにしてIDQAFとIDDSの発展である。これらは、統計活動を遂行しているIOsが自主的に賛成するものであろう。このイニシャチブは高い品質基準に向かってのIOsの収束をスピードアップし、最終利用者に対する説明責任を改善するであろう。

国際統計の統計システムの発展もまたデータとメタデータの交換のための共通のインフラストラクチャを建設する協力的努力を必要とする。既に述べたように、SDMXイニシャチブは、この点で基本的役割を演じることができる。新しいICTアプローチ（拡大可能なマークアップ言語－XML－およびウェブサービスに基づいたアプローチのような）は分散型で異質なシステムを統合することを可能にする。さらに、データ収集、管理と配布に関する解決策を開発する上で、IOsによる共同の努力は、統計活動を遂行するための全体的費用を減じ、統計活動を扱う国の機関への積極的な波及を伴いつつ、主なソフトウェアの売主の政策に影響を与えることができる。したがって、第四の段階は、SDMXイニシャチブを、国のデータ提供者（国の統計機関、中央銀行、その他）との密接な協力の中で、統計生産過程のための国際機関のITによる解決法の技術的開発と統合を促進するための推進体にするのである。

最後に、職員交換のプログラムと共通トレーニングイニシャチブの構築が、IOsが品質管理の共通の文化を発展させ、その統計部を超えてのアイデアの横断的豊富化を促進する助けとなりうる。

この節で強調した過程を推進し運転するために、CCSAの役割は基本的である。それは、より活動的な役割を、特にその年次の会合の間に演じるべきである。その役割を強化するために、局を創設することができ、局の各メンバーは年を通じての特定の活動に責任を持つことになろう。このようにして、委員会はより効率的に活動し、そのメンバーによるその勧告の実施を促進するであろう。

5 結論

本論文で述べたように、国際統計の品質は調整されたアプローチを必要とする世界的政策課題である。国際機関にとって、世界規模の統計の源泉としてのその信用に最大の影響を与えるのは、その統計家の専門性、統計活動を進めるために使われる手続きの透明性、適切な統計を生産するためのその顧客や利用者との継続的対話、および適時性、正確性、整合性、アクセス可能性、およびそれが配布するデータの翻訳可能性、である。これらの目標は各機関によって追求されなければならないが、同じ方向での共同の努力は、国際機関の統計部門がその目標を達成し、その利害関係者が国際統計の品質の改善へ投資することを促進することに大きな助けとなるだろう。

この過程を促進するために、IOsは包括的戦略を開始するべきである。そういった戦略は、制度的、文化的、技術的および管理的側面を含み、理想的には、IOsがグローバル化した情報社会という脈絡の下で、品質の高い国際統計の生産者としての評判を高めることを可能にするべきものである。われわれは知っているとおりに、いかなる機関の評判もその行動の効率性と有効性を改善するための時間をかけての継続的な努力を通じて打ち立てられる。そういった評判をかちとることは非常に難しかったが、速やかに破壊されることができた。これは、過去におけるよりも今日にはより適切である国際統計において特に真実である。

「グローバル化した情報社会」という脈絡の下では、利用者に高い品質の統計を供給する際のIOsの役割はかつてなく重要である。国際統計家は、この課題を意識しており、彼らが配布した統計の品質を共同で改善するために、利用可能な制度的、技術的、方法的ツールによって創られた機会を逃すべきでない。IOsにおける利用者とトップマネージャーは、具体的な活動を促し、今や国際統計がそれらを実行することができることを示すときである。

文献

- Australian Bureau of Statistics (2004). "Experiences, Aspirations and Strategies of the Australian Bureau of Statistics Related to Data and Metadata Exchange". paper presented at the first meeting of the OECD Expert Group on Statistical Data and Metadata Exchange, 1-2 April 2004, Paris.
- Brünger, H. (2003), "Towards a Statistical System". paper presented at the Second Meeting of the Coordination Committee on Statistical Activities, 8-10 September 2003, Geneva.
- Eurostat (2000), *Information and Knowledge. The Role of Statistics*, Proceedings of the 86th DGINS Conference, Office for Official Publications of the European Communities, Luxembourg.
- Finn, B. and E. Giovannini (2003), "Statistical Developments and Strategies in the Context of e-government Initiatives". OECD Statistics Working Papers, No 2003/3, OECD, Paris.
- Giovannini E. (2004) "The Quality of International Statistics: Outstanding Issues and Proposals for Improvement". paper presented at the Second ECB Conference on Statistics, Frankfurt am Main, Germany, April 2004.
- Havinga I., Kamanou G., Schweinfest S. and De Vries W. (2004) "Squaring the Quality Circle. Towards a Quality Framework for International Official Statistics". paper presented at the CCSA Conference on Data Quality for International Organisations, Wiesbaden, Germany, 27-28 May.

- Holt, T. (2000), "Measuring and Managing Quality: Processes and Issues", IMF Conference on Quality of Statistics, Seoul, December 2000.
- Laliberté, L., W. Grünwald and L. Probst (2003), "Data Quality: A Comparison of IMF's Data Quality Assessment Framework (DQAF) and Eurostat's Quality Definition", IMF/OECD Workshop Assessing and Improving Statistical Quality, 5-7 November 2003, Paris.
- Schreyer, P. (2001). "Some Observations on International Area Aggregates", OECD Statistics Working Papers, No 1, OECD, Paris.
- OECD (2002). "Creation of the Euro Area: Implications for Economic Statistics", *Statistics Brief*, No 2. OECD, Paris.
- OECD (2003a). *Quality Framework and Guidelines for OECD Statistical Activities*, available at www.oecd.org/statistics.
- OECD (2003b). *The 2003 OECD Statistical Programme of Work*, available at www.oecd.org/statistics.
- OECD (2004). *The 2004 OECD Statistical Programme of Work*, available at www.oecd.org/statistics.
- Samuelson, L. and L. Thygesen (2004). "Building OECD's New Statistical Information System", mimeo.